

平成20年度 府立北嵯峨高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) ( 計画段階 ・ **実施段階** )

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
△「独創質実」の精神を具体的教育実践に活かす。 △類・類型(Ⅱ類文理系及びⅠ類文系・理系・スポーツ科学系・総合系)の特色化に取り組む。 △教育方針を踏まえ、「教育指導の重点」の具現化に取り組む。 (1) 規律ある生活と健康・安全生活の確立 (2) 学力向上と進路希望の実現への取組 (3) 特色ある学校づくりの一層の推進 (4) 地域に開かれた学校づくり (5) 人権教育の充実 (6) 国際理解教育・環境教育・情報教育の充実 (7) 社会の変化に対応した本校の将来像の構築 (8) キャリア教育の充実 △「学習と部活動の両立」を目指した学校づくり。	(成果) (1) 本校の現状に対する危機感を共有し、学力向上に向けた様々なプランを策定できた。 (2) より機能的な校務運営を目指した協働体制の土台作りができた。 (3) 私大合格者数が過去最高となった。特に中堅私大への第Ⅰ類合格者が増加した。 (4) 遅刻者数が減少し、雨合羽の着用率が増加した。 (5) 生徒会活動が活発化した。 (課題) (1) 生徒の基礎学力定着と自学自習力の育成 (2) 教科指導力の向上と授業の工夫・改善 (3) 部長会議を中心とした学校運営機能の充実 (4) 一致した生活指導の推進 (5) 進路希望実現への取組の充実	(1) 学力向上フロンティア校として、授業研究や教科指導法研修を推進し、さらなる学力向上のための授業内容や方法を改善し、教育のプロとしての指導力向上に取り組む。 (2) 部長会議、教科主任会議を充実させるとともに、各分掌、各教科の連携・協議を重視し、一人ひとりの生徒の教育に学校全体が責任を持つ指導体制を確立する。 (3) 教職員の協働体制をより一層強化し、互いに学び合い支え合う職場環境づくりに努める。 (4) ISプロジェクトおよびキャリア教育をより一層充実させる。 (5) 学校評価・教職員評価を効果的に活用し、学校の教育力を向上させる。 (6) すべての授業において、50分の授業を確実にを行い、充実させる。

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題	
組織・運営	◇教職員の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化させる。	◆本年度学校経営の重点に基づいて、分掌ごとに年間重点指導目標を設定し、進行管理を行う。 ◆部長は、相互の連携を緊密にとり、分掌内の意見を把握して、潤滑な学校運営を推進する。	1 2	B B	B	・学校経営計画に基づく各分掌の目標管理は概ね達成できている。しかし部長会議を中心とした運営機能の充実という点においては幾分課題を残す。今後は協働体制の確立に向けた取組のなかでも改善を進めていく。 ・保護者の要望の多くは本校の重点目標と共通しており、真摯に受け止め、改善への努力を続けている。しかし施設設備等に関しては改善が困難なものもある。
	◇学校外からの意見を率直に受け止め、学校経営に生かす。	◆評価結果を学校評議員に提示し意見を求めるなど、学校経営において学校評議員を有効に活用する。 ◆保護者対象の学校評価アンケート結果を学校改善に生かす。	3 4	B B		
	◇本校の教育課程の特色をより一層明確化する。	◆生徒の学習状況・進路希望の実態を踏まえ、現行教育課程の成果等を検証する。	5	B		
	◇総合的な学習の時間「ISプロジェクト」を充実させる。	◆ISプロジェクト会議を中心に全教員による指導体制を確立するとともに、小論文指導を質的に向上させる。	6	B		
教育課程の編成と実施	◇教科指導力を向上させる。	◆教科指導法研修を充実させ、教科科目の枠を越えて、教科指導力の向上と授業の工夫・改善に努める。 ◆研究授業週間を年2回設け、すべての授業を公開し、授業改善に生かす。	7 8	B B	B	・来年度は、生徒の進路結果等を踏まえ、教育課程の改善に向けて、十分論議していく必要がある。 ・3年生のISリサーチを業者による添削とし、2年生3学期の時事問題では誤字脱字まで添削指導を行い、小論文指導を質的に向上させることができた。取組をさらに充実させるためには生徒の意識向上が鍵となる。 教科指導法研修会などの研修については、計画、実行の担当組織を明確にして、実のあるものに工夫・改善する必要がある。研究授業については、従来の各教科ごとに行う形が望ましい。
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆府高実力テスト等の結果分析を行い、教科指導に生かす。 ◆小テストやブート点検等を定期的に行い、家庭学習を定着させる。	9 10	B B		
	◇中途退学・原級留置を防止する。	◆不登校・倦怠学生徒の早期発見に努め、また、成績不振生徒に対しても、進級・卒業に向けた的確な指導を行う。	11	B		
	◇読書意欲を向上させ、読書習慣を形成させる。	◆早朝開館により朝の読書を奨励すると共に、展示や読書会、調べ学習等を通して、図書館及び図書資料の活用を促進する。	12	B		
	◇ICT活用授業の実践を推進する。	◆すべての教員が教科指導の補助手段として、ICT機器の利用技術を高める。	13	C		

生徒指導 特別活動	◇高校生活の望ましいあり方を再認識させ、基本的な生活習慣を確立させる。	◆服装や身だしなみの指導、頭髪指導を全教職員で徹底して行う。 ◆毎日の登校時校門指導や生活週間など、あらゆる機会を利用して、基本的な生活習慣を身につけさせる。	14	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等では全教職員で頭髪チェックを行い、学年と生徒指導部の協力体制のもと頭髪指導に取り組み、頭髪加工生徒は減少の傾向にある。</li> <li>・ピアスを装着している生徒に対してはその場で預かり指導を徹底した。</li> <li>・自転車マナーを向上させる取組については、生徒会本部役員の生徒が交通安全講習に出向いたり、所轄警察署から、交通安全の推進委員の委嘱を受けるなど、少しずつ自発的な取組へと変わりつつある。</li> </ul>
	◇生徒の自主性・自発性を伸ばさせる。	◆文化祭等の各行事において、生徒を中心に準備に取り組みせ、内容を充実させる。 ◆生徒会が中心となって、生徒自らが自転車マナーを含む交通安全意識を向上させる。	15	A			
	◇学習と部活動の両立を推進する。	◆担任・教科担当・部活動顧問が連携を密にし、学習状況・活動状況等を把握し、生徒の自覚を高めさせる。	16	B			
			17	B			
進路指導	◇計画的・系統的に進路学習を実施する。	◆3年間を見通した進路指導計画を立て、それに基づいて、「ISノート」や「進路のしおり」を活用した進路ホームルームを計画的に実施する。	19	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ホームルームに関しては、学年と進路指導部が協力し、計画的に実施できた。</li> <li>・担任を中心に、教科担当や部顧問等が日常的に情報を共有し、指導にあたった。</li> <li>・進路検討会は計画的には実施できなかった。</li> </ul>	
	◇全校を挙げた進路指導を推進するために、指導体制を強化する。	◆日常的に面談指導を行い、生徒の理解に努めるとともに、情報を関係する教員で共有し指導に生かす。 ◆進路検討会を、進路指導部と学年が連携して計画的に行い、取組を充実させる。	20	B			
			21	B			
人権教育	◇人権問題について広く深い理解と正しい認識を高める。	◆年2回の人権週間の取組を充実させるとともに、生徒の人権意識を的確に把握し、指導に生かす。	22	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR人権学習を中心にその事前学習、事後学習を有機的に組合せ、様々な人権問題を映画・講演・特別講義などの多彩な形式のもとで、様々な資料を用いて行うことができた。</li> </ul>	
健康・安全 教育	◇交通規則の遵守とマナーアップに努め、交通事故防止に役立っている。	◆自転車安全点検・雨合羽の着用指導、生活実態調査等を通じて、自転車走行マナーを向上させる。	23	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨合羽の着用等、粘り強く指導を続けている。自転車乗車マナーの向上は、一層の指導を要する。</li> <li>・スクールカウンセラーと担任の話し合いや情報の提供は依頼があるものについて実施した。また保健部としても担任と連絡を密にできた。</li> </ul>	
	◇保健指導の充実により、生徒の健康に対する意識を高めるとともに生徒が心身ともに健康に過ごすための環境作りを推進する。	◆心身に問題を抱える生徒の早期ケアのために、保健部と学年部が連携を強化するとともに、スクールカウンセラー事業を有効に活用する。	24	B			
学習環境	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動を中心に、月1回の大掃除・各学期の美化週間において目標を明確化した取組を行い、学習環境を整える。	25	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美化週間を中心に校内美化に意欲的に取り組むことができたが、大掃除の日程調整に課題が残る。</li> </ul>	
安全管理 情報・文書 管理	◇学校の危機管理体制を強化する。	◆全教職員が学校の危機対応についての理解を深め、日頃から、適切な対応ができるようにする。	26	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は本校用の「緊急時の危機管理マニュアル」を作成、周知するとともに、非常時用グッズを装備した。</li> <li>・1学期に各分掌でセキュリティ対策基準の見直しを検討し改訂を行った。</li> </ul>	
	◇個人情報の管理を徹底する。	◆北嵯峨高等学校セキュリティ対策基準に対する理解を深め、教職員のセキュリティ意識を高める。	27	B			
キャリア教育	◇各教科や分掌においてキャリア教育を推進する。	◆シラバスに基づいて授業の中でキャリア教育を実践するとともに、すべての行事をキャリア教育の視点で充実させる。	28	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はもちろん、様々な学校生活の中でキャリア教育を実践できた。</li> </ul>	
家庭・地域 社会との 連携	◇広報活動を充実し、学校の情報を迅速に提供する。	◆ホームページの更新に組織的に取り組み、最新の情報を発信する。	29	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新着ニュースのページを新設し、より迅速な情報の発信を行った。また学校公開・学校説明会・部活動体験など、専用ページを設けてわかりやすい情報発信ができた。定期的な情報発信を充実させるために、情報収集の方法を工夫する必要がある。</li> <li>・学校公開については、全部活動の部長からの一言を取り入れるなど、より魅力ある形への改善を図った。</li> </ul>	
	◇積極的な生徒募集に努め、本校への志願者を増加させる。	◆学校公開への参加を地域の中学校に積極的に働きかけるとともに、内容を魅力あるものにする。	30	B			
次年度に向けた改善の方向性	今年度は、教科科目の枠を超えて「教科指導力向上と授業の工夫改善」のための研修を3回実施することができた。次年度は、授業力を向上させるためのあらゆる機会を有機的に関連づけ、本校ならではのシステムを構築していく。さらに中学生気分を一新し高校生としてのあるべき姿の基礎を身につけさせるため、高校一年一学期の指導体制を強化することについては共通理解が得られた。今後も引き続き、地元から信頼される学校づくりに向けて全教職員が一丸となって取り組む。また今年度の学力向上フロンティア事業の一つである朝自習については、開始時間や時期、内容などを工夫して次年度も引き続き実施する。						